

# 特別支援学校における センター的機能の充実に関する研究

—発達障がいのある児童についての  
コンピュータソフトを使用した相談支援ツールの作成をとおして—

【研究担当者】 奥谷正彦

【この研究に対する問い合わせ先】

Tel 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562

E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

## 特別支援教育 支援方法策定ソフト

### 1 研究の概要

特別支援学校は、特別支援学校のセンター的機能として、これまで培ってきた障がいのある幼児児童生徒の教育に関する知識や経験等を生かし、地域における特別支援教育の中核的機関としての役割を果たすことが求められています。近年、小学校から、発達障がいのある児童に関わる訪問相談の依頼が増え、実態把握や具体的支援方法についての相談内容がほとんどを占めています。

そこで、発達障がいのある児童についての相談を支援するためのコンピュータソフトを使用したツールの作成をとおして、特別支援学校におけるセンター的機能の充実につなげようと考えました【図1】。



【図1】 特別支援学校におけるセンター的機能の充実に関する基本構想図

### 2 訪問相談において児童への具体的な支援方法を話し合うための課題

訪問相談において対象児童の具体的な支援方法を検討するためには、まず、対象児童の行動からいくつかの課題を整理し焦点化します。次に、対象児童の行動を分析し、困っている行動の背景を探ります。このような流れで対象児童を見取り、具体的な支援方法を検討することが重要ですが、そうした場合、対象児童に直接かかわってきていない特別支援学校の教員にとっては、小学校の教員からの児童の行動等の情報が、対象児童の具体的な支援方法を検討するための重要な視点の一つとなります。

このような特別支援学校による小学校への訪問相談における課題は、以下のとおりです。

- ・ 小学校の教員が、特別支援学校の教員に児童の情報を十分に伝えることができない
- ・ 特別支援学校の教員が、具体的支援方法を検討するための手順を提示できない
- ・ 特別支援学校の教員が、対象児童を見取る視点を分かりやすく伝えることができない
- ・ 限られた時間内で相談を実施しなければならない

### 3 発達障がいのある児童についてのコンピュータソフトを使用した相談支援ツール

#### (1) 相談支援ツールを使用した訪問相談

特別支援学校による対象児童の在籍校への従来からある訪問相談を図式化したものが【図2】です。相談支援ツールを使用した児童の在籍校への訪問相談は、【図3】のように「受付」「児童観察」「相談」とし、今回新たに「相談」をステップ1～3と段階化しました。相談支援ツールは、「相談」のステップ1・2の効率化とステップ3の充実を図ります。



【図2】従来からある対象児童の在籍校への訪問相談

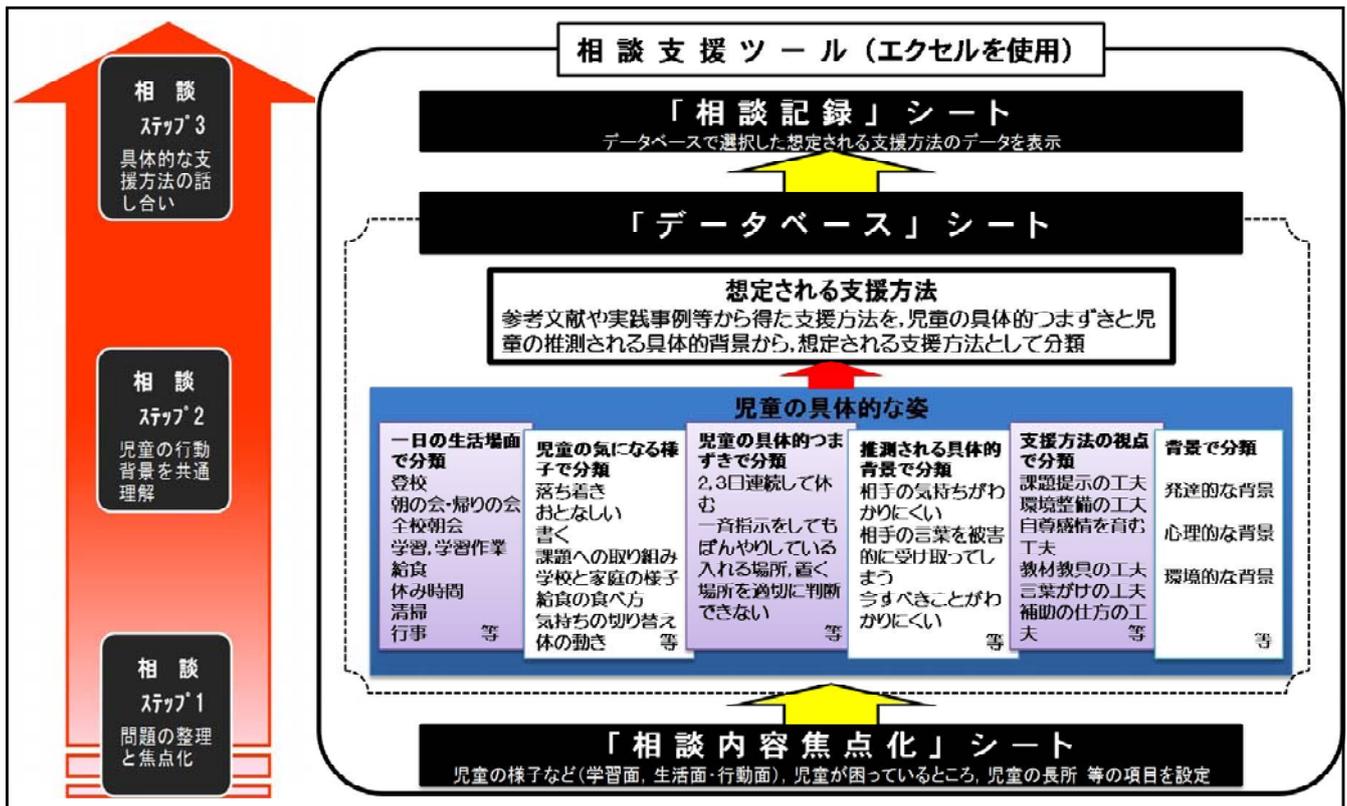
- ・特別支援学校の教員が、対象児童の様子や小学校教員等の考えから相談内容を整理・焦点化すること
- ・特別支援学校の教員が、小学校の教員に具体的支援方法を検討するための手順を示すこと
- ・特別支援学校の教員が、小学校の教員に対象児童を見取る視点を示すこと
- ・限られた時間内で、効率的な進め方ができるようにすること



【図3】「相談支援ツール」を使用した対象児童の在籍校への訪問相談

#### (2) 相談支援ツールの構成と活用の流れ

相談支援ツールは、表計算ソフト「エクセル」を使用し、相談において実際に使用する「相談内容焦点化」、「データベース」、「相談記録」の3シート【図4】で構成しています。このツールは、相談ステップ1から相談ステップ3の各場面で各シートを活用しながら話し合いを進めることにより、対象児童についての共通理解と話し合いの効率化を図ります。



【図4】相談支援ツールの構成と活用の流れ

### (3) 相談場面における相談支援ツールの各シートの活用

#### 相談 ステップ1 問題の整理 と焦点化

特別支援学校の教員が、観察記録と「相談内容焦点化」シート【図5】を使って、小学校の教員と一緒に情報を確認しながら、児童が困っていることは何かを整理し、焦点化を図ります。児童の実態や背景を常に視覚的に提示されていることにより、特別支援学校と小学校の教員とが、とらえ違いがないか確認しながら話し合うことができます。

児童の様子について、学習面、生活面・行動面、その他（家庭の様子等）を入力します。また、担任として気になる点、困っていること、児童が困っているところ、児童の長所等の観点からも情報を整理します。

【図5】相談支援ツール「相談内容焦点化」シート（例示）

#### 相談 ステップ2 児童の行動 背景を共通 理解

特別支援学校の教員が、発達障がいのある児童の行動特徴を「一日の生活場面」「児童の気になる様子」「児童の具体的なつまずき」「推測される具体的背景」「想定される支援方法」等の分類項目で分類した「データベース」シート【図6】を使って、推測される児童の行動背景の共通理解を図ります。

「データベース」シートでは、発達障がいのある児童について、特別支援学校と小学校の教員とが一緒になって、分類項目毎に気になる様子やつまずきなど、一人一人の特徴をデータベースの中から選択します。分類項目毎にデータを絞り込みながら、詳しく行動を見取り、行動の背景を探っていきます。

そして、特別支援学校の教員は、絞り込まれたデータの中から、いくつかの想定される支援方法を提示します。

【図6】相談支援ツール「データベース」シート（例示）

## 相談

### ステップ3

具体的な支援方法の話し合い

特別支援学校の教員は、「データベース」シートで絞り込み、整理した情報により導きだされた「相談記録」シート【図7】をもとに、小学校の教員と実際の指導場面や在籍校の現状を踏まえた具体的な支援方法を話し合います。

これらの具体的な支援方法例が、児童に合った支援方法を考えるヒントとなります。

相談記録シート			
NO. <input type="text"/>		相談者 担任 <input type="text"/>	その他 <input type="text"/>
作成日 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日		学年 <input type="text"/> 年	
児童名 <input type="text"/>		支援担当 <input type="text"/>	
優先項目	指示の理解		
実態	・1対1であれば指示を理解して行動することができる		
コード番号	396		
一日の生活場面	学習	学習	
児童の具体的なつまずき	一斉に指示をしてもぼんやりしている	一斉に指示をしてもぼんやりしている	何を書いていいかわからない
推測される具体的な背景	一度に複数のことを指示すると混乱する	聞く準備ができていない	語彙力が弱い
支援方法の視点	声かけの工夫 提示の工夫	声かけの工夫 補助の仕方 補助の工夫	補助の仕方 補助の工夫
想定される支援方法	活動の手順を書いたカードやチェック表を確認しながら、課題に取り組めるようにする。 言葉だけの説明ではなく、活動内容を板書(絵や文字)するなど、視覚的に提示することも交えて行う。 必要に応じて、自分の声の中で繰り返し話してみる	場面の理解ができていない場合は、話し始める前に静寂な雰囲気を作るなどして、「聞く場面」と「話す場面」のメリハリをつける。話す人を見るなどの「聞き方マナー」や、聞いたことをメモするなどの「聞きかた」を指導する。 注意がそれている場合、ラップカードやフラッシュカードなどを用いて、声かけの工夫	辞書を活用しながら書けるようにする。 区切り毎に意味を確かめながら読めるようにする。 キーワードにアンダーラインを引いたり、枠外に言葉の意味を添えて、読みやすさを高める。
メモ			
目標(短期)			
その後の様子			

「データベース」シートで選択したデータが表示されます。児童への具体的な支援方法を考えるヒントになります。

個別の指導計画への活用ができるように、「優先項目」「実態」「児童の具体的なつまずき」「推測される具体的な背景」「想定される支援方法」「メモ」「目標」「その後の様子」等の項目を設定しました。

【図7】相談支援ツール「データベース」シート（例示）

## 4 児童の在籍校への訪問相談における「相談支援ツール」を使用した指導実践

### (1) 指導実践の概要

岩手県立盛岡となん支援学校に相談の依頼があった小学校において、相談支援ツールを使用した訪問相談の実践を行いました。

### (2) 指導実践の考察

相談に対応した岩手県立盛岡となん支援学校の教諭への意識調査から、相談支援ツールを使用した訪問相談について、以下のようなことが分かりました。

- ・相談支援ツールのうち、「相談内容焦点化」シートは、児童の実態や背景を常に視覚的に提示されていることにより、特別支援学校と小学校の教員とが、とらえ違いがないか確認しながら話し合うことができ、児童を共通理解する上で効果的でした。
- ・「データベース」シートは、「一日の生活場面」「児童の気になる様子」「児童の具体的なつまずき」「推測される具体的な背景」の順で提示されることにより、特別支援学校と小学校の教員とが、児童の行動背景を一緒に詳しく探っていくことができ、児童の共通理解に効果的でした。
- ・相談支援ツールは、コンピュータソフトを使用しツール化されていることにより、特別支援学校と小学校の教員とが、相談場面での話し合いの要点を常に視覚的に確認することができ、効率的に話し合いを進めることに効果的でした。

## 5 研究の成果と課題

### (1) 成果

相談支援ツールを作成して、ツールを使用した相談を実践し、そこから得られたことをもとに、相談支援ツールを修正・改善することができました。

また、こうした一連の取組をとおして、発達障がいのある児童についてのコンピュータソフトを使用した相談支援ツールが、特別支援学校におけるセンター的機能の充実に役立つことが確認できました。

### (2) 課題

課題は、以下に挙げる2点です。今後は、以下の内容について、さらに取り組んでいく必要があります。

- ・相談支援ツールの充実
- ・相談支援ツールの普及・活用

※本研究で作成した「相談支援ツール」は、岩手教育情報交流ネットで公開しています。